



(題字・野口孝重先生)

発行所 名城大学電気会

名古屋市天白区塩釜一丁目501番地

電話(052)832-1151

名城大学理工学部電気電子工学科内

編集責任者 常田 勝 男

印刷 常川印刷株式会社



名城大学電気会第51回通常総会のご案内

名城大学電気会会長 常田 勝男

(I部56年卒)

名城大学電気会(以下電気会)会員の皆様には、各地各方面でご活躍のことと深くお慶び申し上げます。また、日頃より本電気会の活動にご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

平成28年度、名城大学は、創立90周年を迎えました。ここで、名城大学の歴史を簡単に振り返ります。名城大学は、大正15年5月1日「名古屋高等理工科講習所」として誕生しました。その後、昭和2年3月12日文部省の許可を得たと同時に「名古屋高等理工科学校」「名古屋専門学校」を開校、昭和3年に第1回卒業生を送り出しました。電気科3名、数学科1名の4名でした。

一方、名城大学同窓会組織では、昭和9年に「名古屋科学工業会」が設立され、昭和28年に「名城大学理工会」設立、昭和36年に「理工学部同窓会」が設立されました。電気会の発足は、昭和37年になります。このような長きにわたる歴史を経て、電気会は、現在、会員数11,000余名をこえる団体となっております。

電気会会員は、卒業生および教職員を正会員に、在校生を準会員としています。そして、電気会の組織活動は、毎年策定する事業計画に基づいて実施しています。平成29年度の活動内容を末尾に紹介しましたので、ご参照願います。

電気会の組織は、学科長を名誉会長とし、役員会を決議機関と位置づけています。そして、この下に4つの委員会組織、すなわち総務委員会、行事委員会、企画委員会、会報委員会を設けています。各委員会では各担当副会長を中心に、素案の立案作業を行います。また、検討作業の進捗状況は、電気会ホームページを利用してそのデータを保存し、各役員が情報共有できるようにしています。そして、今年度は、組織運営を客観的に評価するための方策として、評価委員会を設置しました。また、電気電子工学科との連携に力をいれ、従来からの行事に加え、新たに卒業研究中間発表会に参加し審査を行うとともに電気会から優秀発表者を表彰することも実施しました。電気会準会員との交流をさらに深めたいと考えます。

開学90周年を機に大学は大きく変わりました。校友会会館や名城大学正面アプローチもリニューアルされ、ナゴヤドーム前キャンパスも3学部あつまり、開設されました。この機会に、我々電気会も母校に貢献しました。電気会は、総会で承認いただいた特別会計100万円を、開学90周年募金として寄付いたしました。上部団体の理工同窓会は1,000万円を校友会は1億円を寄付しています。

さらに10年後には、開学100周年を迎えます。母校の益々の発展を願い、電気会会員の皆様、特に、各界でご成功の皆様

には、是非ともご寄付をお願い致します。

愛知県の代表的産業である自動車、航空機業界では好調な業績になり、有効求人倍率も高水準です。各企業は賃金のベースアップを実施する会社も多いと聞いています。名城大学電気電子工学科を卒業された方々は電力業界、製造業、これらを支える制御、工作機械、通信関連、情報サービス関係企業等幅広い分野でご活躍されております。電気会は大学の先生方や卒業生の方々が集い、情報交換や協力が出来る場になっています。これからも電気会を発展させ、母校名城大学にも貢献していくために、先輩諸氏の御指導、ご鞭撻、御協力、次代を背負う人達の積極的な参加が不可欠です。名城大学電気会では年間1万円の賛助会員を募集しています。電気会ホームページで賛助会員告知ページが与えられますので企業、個人問わず応募してください。母校の更なる発展のために我々名城大学電気会は一層尽力して参りたいと考えておりますので、変わらぬご支援・ご協力をお願いいたします。

会員皆様への情報発信の場として電気会ホームページも一層充実してまいります。

今後も電気会活動へのご理解とご協力、ご参加を、重ね重ねよろしくお願いいたします

<平成29年度 電気会 活動紹介>

1. 第51回 電気会総会、理工同窓会総会
2. 研究室対抗ソフトボール大会支援とOBチーム参加
3. 新春懇談会の開催 平成30年1月20日(土)
名古屋ガーデンパレス
4. 卒業研究中間発表会での電気会会長賞の表彰
平成29年9月9日(土)予定
5. 卒業研究発表への電気会から聴講
6. 電気電子工学科 卒業式(卒業証書授与式)参加
平成30年3月16日(金)
7. 卒業祝賀会(学生と電気会役員の実行委員会運営)
平成30年3月16日(金)
8. 役員会6回/年、評議委員会1回/年、専門委員会随時開催
9. 名城大学電気会ホームページの更新 各行事案内・報告
10. 名城大学校友会主催のさんすい会への講師派遣
11. 電気会主催電気電子工学科教員との懇談会
12. 名城大学理工同窓会役員、校友会役員、名城大学評議員等役員の派遣
13. 名城大学上部団体行事への参加
(各同窓会行事参加、名城大会記念行事参加、慶弔参加、寄付参加等)

名城大学電気会第51回通常総会開催要領

日 時 平成29年6月11日(日)

受付: 9:00 ~

開始: 9:30 ~ 10:20

場 所 名城大学 共通講義棟南S401室

- 議 題: 1. 平成28年度事業報告
2. 平成28年度決算報告、会計監査報告
3. 平成29年度事業計画及び予算案
4. 電気会役員、評議員改選
5. 電気会会則改正について
6. その他



電気電子工学科長あいさつ

電気電子工学科長 伊藤 昌文

名城大学電気会の皆様には各方面で益々のご活躍のこととお慶び申し上げます。電気電子工学科の学科長を拝命して2年目となります。学科長としての初年度は至らぬことも多々あり、ご迷惑をおかけしたこともあると思いますが、皆様のご支援、ご指導のおかげで何とか無事一年を終えることができました。

ここでは、電気会の皆様に電気電子工学科の昨年度と今年の重要な出来事についてご報告させていただきます。昨年度の最大の出来事としましては、50年間の長きに渡り名城大学の教員として勤務されました大江俊美教授が定年退職されたことと存じます。50年というのは半世紀であり、今後もありえない最長の勤務年数です。ご退職時のパーティでは大江先生が名城大学をご卒業されてすぐに大学で働き始めた頃の今では想像できないほどの経験もお聞きし、我々が名城大学で今日教育できるのも先人のご苦勞があったことと痛感いたしました。詳細は大江先生の退職のご挨拶を是非ご参照ください。今後18歳人口も減少することもあり、大学にとっては大変な時代になることが予想されますが、先人のご苦勞に比べれば努力と知恵が足りないと考え、名城大学の更なる発展のために教育研究の向上に向けて教員一同協力して取り組んでいかなければならないと気が引き締まる思いがしました。電気電子工学科を代表して大江先生の長きにわたる名城大学の発展に対するご貢献に対して、改めて感謝の意を改めて表します。

また昨年度は、電気会の皆様には新たに多くの事業でのご支援、ご協力をいただきました。その中でも卒業研究中間発表会での電気会役員の方のご支援は特筆すべきものと考えております。卒業研究中間発表会は9月10日に、タワー75の2階のオープンスペースにおいてポスター形式で開催されました。朝から夕方まで、3セッション構成で実施し、電気会役員の方にも審査委員に加わっていただき、卒研生に質疑をしていただきました。また中間発表会で優秀な発表と評価された卒研生に電気会会長賞を授与していただくこととなり、3名の学生が表彰されました。学生にとっては教員以外の社会人の方からの質問は就職時の面談にも役に立つ貴重な経験になったように思いますが、朝から夕方までの評価と役員の方には少しハードすぎたかと反省しております。来年度からは少し負荷を下げる工夫ができればと考えておりますので引

き続きご支援いただければ幸いです。

さらに、3月17日の卒業・修了祝賀会では、上記の電気会会長賞の受賞した学部4年生と卒業論文優秀発表賞を過去に受賞した院生が中心となり、電気会の役員の方の指導のもと4回ほど打ち合わせをし、祝賀会の企画から司会等の実施までを役割分担して担当していただきました。電気会の役員様のご指導のおかげで学生の手作りの卒業祝賀会とすることができたように思います。これらの経験は、彼らが今後社会に出て重要となる何かを勉強できた非常に貴重な経験になったと確信しております。

以上、昨年度から新たに卒業研究中間発表会の審査と卒業祝賀会の指導と電気会役員の皆様には大変お忙しい中、後輩のために教員だけでは教育ができない多くのことをご指導いただきました。この場を借りて感謝を申し上げます。

最後に、今年の電気電子工学科にとって非常に重要な出来事について報告させていただきます。それは、新たに2名の准教授と1名の助教が着任されることです。名古屋大学から竹田圭吾准教授、中央大学から増山岳人准教授、名城大学大学院博士後期課程から村上祐一助教が新任で名城大学理工学部電気電子工学科の教員となられます。

竹田圭吾准教授は電子工学分野の科目を中心に担当していただき、次世代の電子材料・デバイスに関する研究のさらなる発展に貢献していただけるものと期待しております。

また、増山岳人准教授は制御工学分野の科目を中心に担当していただき、次世代のロボット制御に関する研究のさらなる発展に貢献していただけるものと期待しております。

村上祐一助教は高電圧分野の講義と学生実験を主に担当していただき、次世代の高電圧応用に関する研究の更なる発展に貢献していただけるものと期待しております。

准教授は二名とも30代、助教は20代と、教員の平均年齢も一気に若返り、教育はもちろん名城大学の研究をさらに飛躍していただける優秀な人材と確信しております。

電気電子工学科教員一同、三名の若い教員の活力を取り込み、学科の教育・研究をさらに充実させていく所存ですので、電気会の皆様のご支援、ご指導、ご鞭撻を重ねてお願い申し上げます。

平成28年度事業報告(案)

(報告期間 平成28年6月1日～平成29年5月31日)

1. 電気会役員会等の開催

会議名	開催日	主な議題その他
H28年度電気会総会 理工同窓会総会	H28 6月12日(日) 名城大学共通講義棟南S401 出席21名	平成28年度第50回電気会総会 共通講義棟南館S401室 27年度事業報告・決算、28年度事業計画・予算(案)等の審議・役員一部改選・会則変更の件 平成28年度第50回理工同窓会総会 共通講義棟南館S201室 27年度事業報告・決算、28年度事業計画・予算(案)等の審議・役員一部改選・会則変更の件
H28年度正副長会議	H28 7月1日(金) 19:00～20:30 国鉄会館 出席4名	年間運営計画について 名誉会長・会長・副会長
H28年度第1回役員会	H28 8月3日(水) 19:00～20:30 国鉄会館 出席12名	1.新役員紹介 2.名誉会長・会長・副会長会議報告 3.年間活動方針 4.専門委員会業務と委員会構成 5.専門委員会事業報告 (1)総務(2)行務(3)企画(4)会報(5)渉外 6.卒業研究中間発表について 7.研究室対抗ソフトボール大会の件 8.細則等 9.理工同窓会および校友会報告
H28年度正副長会議	H28 8月24日(水) 19:00～20:30 名城大学2号館225会議室 出席:8名	卒業研究中間発表会について 名誉会長・会長・副会長・学内幹事
H28年度第2回役員会	H28 10月4日(火) 19:00～20:30 国鉄会館 出席:14名	1.ソフトボール大会準備(行事) 2.新春懇談会の確認、参加者動員について(行事) 3.電気電子工学科教員との懇談会について(企画) 4.会報発行準備について(会報) 5.総務委員会報告(総務) 6.理工同窓会報告(会長)
H28年度第3回役員会	H28 12月13日(火) 19:00～20:30 国鉄会館 出席:13名	1.新春懇談会の参加者動員について 2.ソフトボール大会の報告 3.電気電子工学科教員との懇談会報告 4.博士・修士公聴会、卒業論文発表会 5.卒業記念品について 6.電気会会誌およびホームページ改修について 7.卒業式、学位授与式、卒業祝賀式について 8.理工同窓会報告
H28年度第4回役員会	H29 1月17日(火) 19:00～20:30 校友会館 第1会議室 出席:15名	1.各科同窓会行事参加報告 2.行務委員会:新春懇談会準備 3.企画委員会:卒業パーティー委員会報告 4.総務委員会:総務委員会議事録報告、評価委員会草案、監査方法案 5.会報委員会:HP、会報の状況報告 6.電気会終身会費書類について 7.卒業記念品について
H28年度第5回役員会	H29 2月17日(金) 19:00～21:00 校友会館 第1会議室 出席:12名	1.学位授与式および卒業祝賀会について 2.電気会ホームページについて 3.電気会会誌について 4.新春懇談会の会計報告 5.電気会終身会費について 6.理工同窓会・校友会報告
H28年度第6回役員会	H29 4月11日(火) 19:00～21:00 校友会館 第1会議室	1.新電気会会員終身会費および卒業祝賀会の会計報告 2.平成28年度事業報告および決算について 3.平成29年度事業計画(案)及び予算(案)について 4.電気会会誌とホームページについて 5.評価委員会・代議員会および総会の準備について 6.電気会役員・代議員の人事について
H28年度評価委員会	H29 4月27日(木) 19:00～21:00 校友会館 第1会議室	平成28年度評価委員会 29年度事業計画・予算(案)、役員・代議員変更について
H28年度代議員会	H29 5月12日(金) 19:00～21:00 校友会館 第1会議室	平成28年度代議員会 28年度事業報告・決算、29年度事業計画・予算(案)、役員・代議員変更について

2. 電気電子工学科卒業研究中間発表会へ電気会役員が審査員として参加
平成 28 年 9 月 10 日(土) 参加者 7 名
発表会 タワー 7 5 2 F 学生ホール
第 1 回 10:30～12:00 第 2 回 13:00～14:30
第 3 回 15:00～16:30
表彰式および懇親会 17:00～18:00 場所:グラン亭
電気会会長賞を 3 名に表彰
3. 研究室対抗ソフトボール大会支援と OB チーム参加
平成 28 年 10 月 15 日(土) 参加者 9 名
4. 電気電子工学科教員との懇談会
平成 28 年 11 月 24 日(木) 19:00～21:00 場所:木曾路 八事店 会費:5,000 円
参加者(敬称略):計 2 3 名
<大学>大江、多和田、伊藤、児玉、山崎、平松、太田、堀田、中條、村本、都竹、村田
<電気会>常田、藤田、森、岩室、伊藤栄、小林、岩田、広倉、樋口、開米、伊藤公
5. 第 22 回名城大学電気会新春懇談会
平成 29 年 1 月 28 日(土) 17 時 00 分～20 時 00 分
場所 アイリス愛知
第 1 部 ミニ講演会 2 F サフランの間 17:00～17:45
講師:名城大学 電気電子工学科 准教授 益田泰輔 様
演題:将来の電力システムの先進的な制御・運用について
第 2 部 懇親パーティー 2 F コスモスの間 18:00～20:00
参加者:一般 31 名(電気会役員含む)、来賓 16 名、大学院生 2 名
教員 13 名(OB 教員 4 名含む)、計 62 名
6. 電気電子工学科 卒業証書授与式
平成 29 年 3 月 17 日(金)
卒業証書授与式 名城大学共通講義棟東館 H304 室
卒業記念品授与 名刺入れ(電気会からの記念品)
卒業論文発表会、修士論文公聴会 優秀発表者 9 名に図書券を電気会から進呈
卒業祝賀会(電気電子工学科との共催)名城大学グラン亭
7. その他の役員会
専門委員会
・総務委員会 11 月 18 日、12 月 15 日、2 月 17 日
・企画委員会 10 月 26 日、11 月 24 日、12 月 7 日、1 月 17 日
・行務委員会 11 月 5 日、12 月 7 日、1 月 19 日
・会報委員会 実施しておりません
8. 修士論文公聴会 平成 29 年 2 月 7 日(火) 参加 2 名
博士論文公聴会 平成 29 年 2 月 8 日(水) 参加 1 名
卒業論文発表会 平成 29 年 2 月 16 日(木) 参加 1 名
卒業論文発表会 平成 29 年 2 月 17 日(金) 参加 1 名
9. 行事参加
1) 理工同窓会役員と学部教員との情報交換会・交流会
平成 28 年 10 月 20 日(木) 18 時～20 時 30 分 タワー 75 1002 会議室 参加 4 名
2) 卒業 30 周年ホームカミングディ懇親会
平成 28 年 11 月 26 日(土) 16:30～ 名城食堂 参加 2 名
卒業 30 周年電気OB 5 名参加(S62 卒)
3) 各科同窓会新春懇談会に電気会役員が参加
・建築同窓会情報交流会 11 月 19 日(土) 名城大学タワー 75 1F カーサ参加 2 名
・材料会 情報交流会 1 月 7 日(土) 名城大学タワー 75 15F レビジョンホール 参加 2 名
・数学会 数学研究会 1 月 9 日(土) 名城大学 N-301 参加 1 名
・交通機械会 新春懇談会 1 月 21 日(土) 校友会館(3 F, 2 F) 参加 2 名
・校友会新年会 2 月 16 日(木) 名城大学タワー 75 15F レビジョンホール 参加 3 名
- 4) 大江俊美教授 退職記念祝賀会
平成 29 年 3 月 11 日(土) 名城大学タワー 75 15F レビジョンホール 参加 4 名
- 5) 平成 28 年度 退職職員送別会(理工同窓会主催)
平成 29 年 3 月 13 日(月) 名城大学タワー 75 15F レビジョンホール 参加 3 名
10. 理工同窓会役員派遣 役員会 8 回/年 副会長 1 名、幹事 2 名、評議員 4 名
11. 校友会役員派遣 常任理事 2 名
12. 名城大学評議員派遣 1 名
13. 電気会会誌の発行
・電気会会誌第 47 号の発行(平成 29 年 5 月発行)
電気会会誌はホームページからダウンロードする方式を定着化
但し郵送を要望する方のみは送付した。
14. 電気会ホームページの充実と更新
・新年度の事業計画、事業報告を即時更新。情報の鮮度を保つ活動を実施。

平成29年度事業計画(案) (期間 平成29年6月1日～平成30年5月31日)

- 平成 28 年度に卒業された方は、電気会の会員となる。
- 第 51 回電気会総会・理工同窓会 平成 29 年 6 月 11 日 (日)
- 研究室対抗ソフトボール大会支援と OB チーム参加
- 電気電子工学科先生との懇談会
- 第 23 回名城大学電気会新春懇談会
日 時 平成 30 年 1 月 20 日 (土) 17:00～20:00
場 所 ホテル名古屋ガーデンパレス
第 1 部 講演会 第 2 部 懇親パーティー
- 渉外活動および広報活動の活性化
一般会員参加者の掘り起し＝前年増への取り組み
・電気会総会参加者(実績 2016 年 21 人、2015 年 22 人)
・新春懇談会参加者(実績 2017 年 62 人、2016 年 80 人)
- 卒業研究中間発表会講評委員へ電気会役員派遣。優秀者に電気会長賞を表彰する。
日 時 平成 29 年 9 月 9 日 (土) 予定
・午前 1 回、午後 2 回の 3 クールすべてに電気会役員を配置する。
・卒業研究優秀者が電気会役員と共同で電気会運営に参加するようになる。
・会費徴収の情宣活動をおこなう。
- 新 4 年生と電気会役員による卒業祝賀会実行委員会を発足する。
卒業祝賀会開催日：平成 30 年 3 月 20 日 (火)
当日運営は学生が実行し電気会役員はサポートに廻る。
- その他一般行事
・卒業式(卒業証書授与式)参加
・卒業祝賀会電気電子工学科との共催
・卒業研究発表会への電気会から聴講
・役員会
正副会長会議 1 回/年
専門委員会 随時開催(3 回/年目処)
・総務委員会・行事委員会・企画委員会・会報委員会
電気会役員会 6 回/年
評価委員会 1 回/年
代議員会 1 回/年
- 理工同窓会
・役員派遣
・理工同窓会主催行事参加
- 電気会会誌の発行
・電気会会誌の発行(平成 30 年 5 月発行)
電気会会誌はホームページからダウンロードする方式を定着化
但し郵送を要望する方のみは送付する。
電気会ホームページの充実と更新
・新年度の事業計画、事業報告を即時更新。情報の鮮度を保つ
活動を実施。
電気会会員住所等の情報更新を HP で実施する。トピックス欄
を充実する。

平成28年度名城大学電気会会計報告
(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

収入の部		(単位：円)	
項 目	予 算	決 算	
前 年 度 繰 越 金	4,054,677	4,054,677	
新 入 会 員 会 費	1,300,000	1,075,000	
賛 助 会 員 費	0	0	
理 工 同 窓 会 交 付 金	400,000	278,100	
雑 収 入	150,000	350,192	
合 計	5,904,677	5,757,969	
年度内収入		1,703,292	

支出の部		(単位：円)	
項 目	予 算	決 算	
会 議 費	250,000	198,642	
学 生 会 員 援 助 費	50,000	50,000	
新 入 会 員 援 助 費	250,000	174,432	
会 報 発 行 費	170,000	162,572	
ホ ー ム ペ ー ジ 費	135,000	279,701	
慶 弔 費	60,000	98,986	
通 信 費	40,000	34,256	
行 事 費	100,000	125,432	
卒 業 謝 恩 会 事 業 費	500,000	489,562	
事 務 費	30,000	20,262	
名城大学開学 90 周年募金へ寄付	500,000	500,000	
予 備 費		0	
小 計	2,085,000	2,133,845	
次 年 度 繰 越 金	3,819,677	3,624,124	
合 計	5,904,677	5,757,969	

平成29年度名城大学電気会会計予算案
(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

収入の部		(単位：円)	
項 目	予 算		
前 年 度 繰 越 金	3,624,124		
新 入 会 員 会 費	1,260,000		
賛 助 会 員 費	0		
理 工 同 窓 会 交 付 金	300,000		
雑 収 入	350,000		
合 計	5,534,124		
年度内収入	1,910,000		

支出の部		(単位：円)	
項 目	予 算		
会 議 費	200,000		
学 生 会 員 援 助 費	50,000		
新 入 会 員 援 助 費	200,000		
会 報 発 行 費	170,000		
ホ ー ム ペ ー ジ 費	150,000		
慶 弔 費	150,000		
通 信 費	40,000		
行 事 費	100,000		
卒 業 謝 恩 会 事 業 費	500,000		
事 務 費	30,000		
名城大学開学 100 周年寄付 積立	100,000		
予 備 費	100,000		
小 計	1,790,000		
次 年 度 繰 越 金	3,744,124		
合 計	5,534,124		

監査報告

名城大学電気会の役員からホームページ、会誌および書類による事業の報告を受けて、
役員業務執行に関して適正であることを認める。

諸帳簿の記載、現金、貯金等の額に誤りが無いことを確認した。

会計の運用は全面的に良好であることを認める。

以上の結果、本会の業務執行および財産管理は適正であることを認める。

平成 29 年 4 月 27 日

監査人 大野英之 印 監査人 河邑秀康 印

平成 28 年度～平成 29 年度電気会役員変更（案）

役 員	氏 名	卒年
会長	常田 勝男	学Ⅰ 56
副会長 総務委員会	広倉 覚	学Ⅰ 54
行事委員会	岩田 和久	学Ⅰ 58
企画委員会	小林 正彦	学Ⅰ 55
会報委員会	伊藤 公一	学Ⅰ 60
渉外担当	米澤 彰賢	学Ⅰ 37
会計	*樋口 富哉	学Ⅰ H 7
学内幹事	*村上 祐一	学Ⅰ H24/博H29
幹事	藤田 實	専Ⅰ 25
	森 順一	学Ⅱ 30
	城 紀義	学Ⅱ 33
	開米 和明	学Ⅰ 47
	*近藤 正幸	学Ⅰ 50
	竹中 正美	学Ⅰ 50
	松野 一彦	学Ⅰ 51
	佐藤 一彦	学Ⅰ 51
	川浦 久幸	学Ⅰ 61
	*中田 和弥	学Ⅰ H21/修H23
	*早川 貴久	学Ⅰ H21/修H23
監査（会計・評価）	河邑 秀康	学Ⅰ 46
	大野 英之	45 教員

*印追加および変更

名誉会長および相談役変更（案）

名 誉 役 員	氏 名	卒年
名誉会長	伊藤 昌文	
相談役	*河村 英昭	学Ⅰ 40
	*大江 俊美	学Ⅰ 42
	岩室 隆	学Ⅰ 45
	伊藤 栄	学Ⅰ 50

*印追加および変更

歴代電気会会長

任 期	氏 名	卒年
S 37 ～ S 41	服部 誠治	故
S 41 ～ S 46	若松 寿男	故
S 46 ～ H 1	落合 靖	故
H 1 ～ H 6	井原 丈夫	故
H 6 ～ H 11	柘植 佑好	学Ⅱ 43
H 11 ～ H 15	神田 善郎	学Ⅱ 45
H 15 ～ H 18	岩室 隆	学Ⅰ 45
H 18 ～ H 24	伊藤 栄	学Ⅰ 50
H 24 ～ H 26	渡辺 典保	学Ⅰ 56
H 26 ～	常田 勝男	学Ⅰ 56

平成 28 年度～平成 29 年度電気会代議員変更（案）

氏名	卒年
橋本 善造	専Ⅱ 26
坪井 照雄	学Ⅱ 30
水野 光雄	専Ⅱ 30
平野 英夫	学Ⅰ 31
織田 繁雄	学Ⅰ 32
中野 重雄	学Ⅱ 32
米良 稔	学Ⅰ 35
*南波 英明	学Ⅱ 35
高村 義正	学Ⅱ 37
伊藤 徳一	学Ⅱ 38
柘植 俊明	学Ⅰ 39
葛西 栄吉	学Ⅰ 40
池田 晋	学Ⅰ 41
大河内正人	学Ⅱ 41
諸戸 勤	学Ⅰ 45
村田 五六	学Ⅱ 45／修H 11
加藤 昇	学Ⅰ 49
後藤 裕至	学Ⅰ 50
伊藤 和彦	学Ⅰ 50
加藤 潤二	学Ⅰ 52
外山 泰裕	学Ⅰ 53
*中田 光龍	学Ⅰ 53
岡村 浩一	学Ⅰ 55
榊原 理浩	学Ⅰ 55
*渡辺 典保	学Ⅰ 56
加藤 誠治	学Ⅱ 56
市川 広樹	学Ⅰ 59
横井 眞則	学Ⅰ 59
沢田 昭人	学Ⅰ 60

*印追加および変更

氏名	卒年
森川 英二	学Ⅱ 60
川端 秀昭	学Ⅱ 63
落合 稔	学Ⅰ H 1
川村 裕一	学Ⅰ H 2
二之部昭司	学Ⅰ H 2
矢部 陽一	学Ⅰ H 3
浅井 覚	学Ⅰ H 4
長谷川祐一	学Ⅱ H 5
村田 英一	学Ⅰ H6/博H12
野口 健二	学Ⅰ H7/修H 9
*金沢 宮孝	学Ⅰ H10
田邊 祥隆	学Ⅰ H10
*菅 龍治	学Ⅰ H12
福島 元彦	学Ⅰ H13
後藤 大輔	学Ⅰ H18
*竹田 有希	学Ⅰ H20
加藤 秀行	学Ⅰ H 21
古川 智也	学Ⅰ H21/修H23
*石田 高史	学Ⅰ H23/修H25
坂野 豊	学Ⅰ H23/修H25
杉本 昌駿	学Ⅰ H25
清田 享稔	学Ⅰ H25
奥田 哲大	学Ⅰ H27
田中 優太	学Ⅰ H28 修
水野 翔太	学Ⅰ H28 修
*高橋 真央	学Ⅰ H29
*木下 雅裕	学Ⅰ H29
*佐藤 弘輝	学Ⅰ H29
*岡部 萌	学Ⅰ H29 修
*木野 裕也	学Ⅰ H29 修

*印追加および変更

訃報 落合 靖 名城大学電気会第三代元会長 ご逝去

落合 靖 電気会元会長には去る 平成 28 年 9 月 19 日脳梗塞のためご逝去されました。ここに謹んで報告申し上げます。

落合 靖 元会長は昭和 25 年名古屋専門一部を卒業され会社勤務の後三重県四日市市に「県民の健康と生命を守る」をフィロソフィーにして四日市医療電機株式会社を設立して地域に貢献し、母校に対しては理工会の歴史と伝統を重んじ大学はもとより校友会（校友会三重県支部長）、理工同窓会、電気会に多大な活躍をされました。

特に電気会においては昭和 46 年第三代会長に就任し昭和 61 年退任するまでの間電気会 30 周年記念事業実行委委員長、理工同窓会電気会代表役員など数多くの役職を担われ、電気会設立の礎から、現在に至るまで中興の祖ともいえる筆舌につくせないご尽力を頂戴しました。

ここに落合 靖元会長の逝去を悼むと共に、長年にわたるご指導ご鞭撻に感謝しご冥福を謹んでお祈り申し上げる次第です。



定年退職のご挨拶 ～蒼蠅驥尾に附して50年～

電気電子工学科 大江 俊美

皆様には益々ご清栄の事とお慶び申し上げます。

さて、私こと

去る(本年・平成 29年・2017年) 3月 31 日付けにて名城大学を定年退職いたしました。名城大学には、昭和 42年(1967年) 4月より50年間お世話になりました。

昭和 38 年(1963 年) 3 月米子東高等学校を卒業、同年 4月名城大学理工学部電気工学科に入学、昭和 42年(1967年) 3月同卒業、同年 4月より名城大学理工学部電気工学科技術員として採用されました。以来 50 年の歳月が流れ、学生時代の 4年間を含めると、54年という長きにわたり名城大学にお世話になり、本年 3月 31日をもって定年退職となりました。この間、先輩の先生方、電気会の役員の方々、研究室の卒業生の皆様にはたいへんお世話になり、大過なく勤めることが出来たのも皆様のおかげと心から感謝申し上げます。

当時は、学部卒業でも、技術員として採用される道が開かれていました。学部卒業生での採用は私が最後で、以後は大学院修士卒業以上が採用条件となりました。卒業研究の指導教員でもあった中尾先生の研究室(基礎研究室)でお世話になることとなり、教育・研究分野での生活が始まりました。当初は、中尾先生が長らく研究されていたシャモット煉瓦の昇温特性に関する研究の実験のお手伝いをさせていただきました。教育・研究者への道を開き、その道の第一歩を踏み出させてくださった中尾先生には感謝の気持ちでいっぱいです。

そうこうしているうちに数年経ったある日、石橋先生から電話があり、名古屋大学の丸勢先生を紹介されました。丸勢研究室に出入りすることができるようになり、さらに、丸勢先生から下山先生を紹介され、輪講にも参加させていただくことになりました。この時以来、下山先生から直接指導を受けることとなり、公私ともにお世話になってきました。当時、丸勢研究室には色んな大学の人が入り込んでいました。先生の人格と人柄に魅せられて多様な人材が集結していたように思います。

この時は勿論知る由もありませんが、平成元年(1989年)には、丸勢先生、名城大学教授として着任。平成 3年(1991年)丸勢先生、学長に就任。平成 4年(1992年) 4月より下山先生、教授として名城大学に赴任され直属の上司となりました。本当に夢のような話でビックリしました。このあたりから名城大学が大きく変わって来たように思います。その後、下山先生も学長に就任されたことは皆さんご存知の通りです。

私は、本当に「人」に恵まれました。私ごとき者に対して、身に余るほどの先生(師匠)、先輩に恵まれ、薫陶を受ける事ができ、少しはまともな仕事もできるようになりました。氏名を全員記載できませんが、本当に多くの方々にお世話になりました。厚く御礼申し上げます。仏説に「蒼蠅驥尾(そうようきび)に附して万里を渡り碧蘿松頭(へきらしょうとう)に懸りて千尋を延ぶ」(立正安国論)という言葉があります。「蒼蠅」はおおぼえ、「驥尾」は一日に千里を走るという名馬のしっぽ。これは、わずかししか飛べない青バエも、駿馬の尾につかまっていれば、万里を行くことができる。つたかずらも、大きな松の木にかかっているだけで、千尋に伸びることができる、という意味です。凡人でもすぐれた先達につき従えば相当の事をなしうることを譬えています。

さて、在任中、私は学生にとって良い先生であったかどうか? 学生の意見を尊重しながら、指導してきたつもりですが、果たして学生諸君の評価は如何なものであったか気になることです。最後に常に私の心に留めている言葉を贈ります。

「英知を磨くは何のため 君よ それを忘るな」

「労苦と使命の中にのみ 人生の価値(たから)は生まれる」

一度ゆっくりと吟味してみてください。

これからは健康に留意し一日一日を心豊かに過ごしたいと考えております。

今後の電気電子工学科、電気会の益々のご発展と会員の皆様方のご活躍、ご健康を祈念いたします。長い間ありがとうございました。



新任ご挨拶

名城大学理工学部

電気電子工学科 准教授 竹田 圭吾

平成 29年 4月から名城大学理工学部電気電子工学科准教授として採用していただきました竹田圭吾と申します。

私は、和歌山大学システム工学部を卒業し、同大学大学院システム工学研究科で修士課程を修了しました。レーザーアブレーション法を用いた植物内部の微量金属元素を計測する技術や半導体デバイス基板の温度を非接触に計測する技術など主にセンサシステムに関する研究と、微小光学素子などを作成するための反応性プラズマエッチングを用いた微細加工技術に関する研究を行ってきました。

その後、名古屋大学大学院工学研究科量子工学専攻に入学し、半導体デバイス製造などにおける反応性プラズマを用いた薄膜成長や微細加工時の非平衡ナノ反応場を解明するため、レーザー分光法などを用いたプラズマ診断に着目し、「反応性プラズマプロセスにおける活性粒子種の反応機構」に関して研究を進め、博士課程を修了しました。そして、平成 19年度の一年間を名古屋大学大学院工学研究科において中核的研究機関研究員としてプラズマプロセスの研究に従事したのちに、平成 20年度より名古屋

大学大学院工学研究科電子情報システム専攻に着任し、「低温プラズマ技術と新材料合成・加工技術の高度化」を目的に、光工学、プラズマ分光、薄膜分析技術を基盤に、新規プラズマエッチング堆積技術の開発、プラズマ活性種の定量的反応機構の解明、大気圧プラズマ技術の開発などを行ってきました。そして、名城大学に赴任後も、ナノ材料とデバイス応用を新しいキーワードとして研究課題に追加し、上記の研究課題を継続して進めています。

大学における高等教育では、専門的な知識のみを教授するのではなく、その専門性を有効に活用し、創意改善しながら理工学を応用するプロジェクトリーダーとして活躍する総合力の高い人材を育成・輩出することが求められます。これには科学・技術に関する基礎・専門的な知識の習得とともに、広い教養と高い協調性など人間力の向上が重要であり、これらを養う教育を学生に行っていきたいと考えております。

微力ではございますが、名城大学の更なる発展に全力をつくす所存でございます。ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



新任ご挨拶

名城大学理工学部

電気電子工学科 准教授 **増山 岳人**

平成 29 年 4 月 1 日より名城大学理工学部電気電子工学科准教授として着任致しました、増山岳人と申します。

高校卒業までを長野県で過ごし、名古屋大学工学部に入学しました。同大卒業後、東京大学大学院にて修士課程を修了し、一般企業に就職しました。その後、再び東京大学大学院にて博士課程に進学し博士号を取得、今年の 3 月までは中央大学にて助教として研究・教育に従事してきました。

学部、修士、博士と進学の度に新たなテーマを設定しましたが、概ねロボットの制御に関連する分野で研究に取り組んでおります。現在は、機械学習の一手法である強化学習を中心に、データ駆動型の自律制御に関する基礎研究に励んでおります。強化学習では、ロボット等の人工的な学習主体が、試行錯誤によって環境と相互作用することで得られるデータに基づき所望の動作を学習します。囲碁のトッププレイヤーに勝利した Google DeepMind の Alpha Go は大きなニュースになりましたが、採用されたアルゴリズムは古典的な

強化学習の枠組みに深層学習を導入したものです。

名城大学着任後も逐次なされる意思決定とそれに伴い観測されるデータとの関連から、自律的に制御則を学習する方法論についての研究を続けてまいります。また、これまでは理論を主体として研究をしてきましたが、今後はより実応用に近い問題設定も含め、一所に留まらず、常にチャレンジし続け価値のある成果を出したいと考えております。

講義に関しては、デジタル回路、電気電子工学実験等を担当致します。私の教育に関する大きな目標の 1 つは、知識を習得するだけでなく、自身にとって有用な知識を効率よく選びとり、身につける方法を学生に発見してもらうことです。個々の学生が、それぞれにあった学び方をみつけられるようサポートできればと考えております。

学部を卒業して以来、久々の名古屋で研究、教育に励めることを嬉しく思っております。ご指導の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。



新任ご挨拶

名城大学理工学部

電気電子工学科 助教 **村上 祐一**

平成 29 年 4 月 1 日に、名城大学理工学部電気電子工学科助教として着任いたしました村上祐一と申します。

出身は三重県四日市市です。四日市の高校を卒業後、平成 20 年 4 月に名城大学理工学部電気電子工学科に入学し、平成 24 年 3 月に学部を卒業、平成 26 年 3 月に本学大学院理工学研究科博士前期課程電気電子工学専攻を修了、さらに平成 29 年 3 月のこの春に本学大学院理工学研究科博士後期課程電気電子・情報・材料工学専攻を修了し、博士(工学)を取得いたしました。また、平成 26 年 4 月から平成 29 年 3 月まで、本学科の非常勤講師として電気電子工学実験を担当させていただきました。

研究室は学部 4 年の卒業研究から博士後期課程修了までの 6 年間、清水・村本研究室(現:村本研究室)で過ごし、高電界パルスを用いた液体殺菌技術に関する研究に打ち込みました。この高電界パルス殺菌法は、

従来広く使われている加熱殺菌法の欠点(加熱により食品中の栄養が変性することや消費エネルギーが大きいこと)を解決できることから、液体食品の新しい殺菌方法として注目されております。今後の研究では、高電界パルス殺菌法の実用化に携われるように精進していきたいと考えております。また、高電圧を応用するさまざまな研究にもチャレンジしていく予定です。

教育の面では電気基礎理論 1、高電圧工学、電気電子工学実験を主に担当させて頂いております。講義では、学生が“事象をイメージできる”よう心掛け、電気電子工学に興味を持って頂けるように努力していく所存です。

経験不足の未熟者ですが、名城大学ならびに電気電子工学科の発展のために全力で研究および教育に取り組んでいく所存でございます。ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

OBインタビュー

アナログからデジタル放送へ



テレビ愛知株式会社
平野 和敏
昭和63年(1988年)卒業

毎朝、塩釜口駅から坂を小走りで2号館の教室まで通った記憶が懐しく蘇ってきます。卒業研究は、発足初年度の第8研究室(情報システム工学)で「音波の非線形相互作用を利用したパラメトリック音源の応用」という可聴域外の超音波を使った超指向性スピーカの研究をさせていただきました。反射波の影響が大きな地下トンネルや廊下で暗騒音の少ない深夜を選んで実験を実施、睡魔に襲われながらも頑張り抜けたのは研究室の先生や先輩、仲間の協力があったからだと思っています。

縁あってテレビ愛知株式会社に1988年4月に入社、世はバブル景気の真っ只中で現在の経済状況とは隔世の感がありました。テレビ放送は衛星放送も開始される前で、まだまだアナログ地上波が全盛の時代でした。入社して1年目は送信技術を担当、テレビ愛知がUHF局(25チャンネル)であったためにTV送信所の送信機には高さ2mぐらいあるクライストロン(高周波送信管)が鎮座し、その巨大さと冷却用ファンの轟音には大変驚きました。信号伝送はもちろんアナログNTSC方式、位相合わせを同軸ケーブルの長さで調整したり、信号を長距離伝送のために高域周波数成分補正用のイコライザーアンプを多用、調整は半固定のボリュームをドライバーで回して行いました。機器の修理も技術屋の経験と技量がモノを言う時代でした。番組送出を制御する自動番組制御装置(APC)はラック数本の大きさのオフコンを使用、データ保存用メディアには巨大な8インチフロッピーディスクを使っておりました。事務用はワードプロセッサ専用機がPCに代わって社内になんげつつ導入されている頃でありました。

その後、番組制作技術部門に異動、報道中継、選挙特番やスポーツ中継番組などの担当の他、全国各地のビジター球場からのドラゴンズ中継も担当させていた

だき、徐々に自分自身もテレビ放送技術力を高めることができました。

2003年に情報システム部門に異動、放送開始が直前に迫った地上波デジタル放送用に開発していた営業放送システム(EDPS)のプロジェクトを途中から担当しました。開発遅れで全く動作しないソフトウェアを相手に、早朝から深夜までハードな勤務状況が続きましたが、2003年12月にデジタル放送を無事に開始することができました。地上波デジタル放送の開始は、日本のテレビ放送にとって歴史的な変革であった反面、放送局にとってアナログとデジタルの2放送を同時に送出するという二重設備投資の時代を向えることになりました。2011年11月によりやくアナログTV放送が終了、その後社内からはアナログ信号や機器が排除され、デジタルへと完全移行しました。デジタル化は機器のPC化とも言えます。このため、機器の寿命は、15~20年間余裕で使用できたアナログ時代と比べ、PC部品寿命やOSの保守サービス期間により短命になっています。テレビ愛知でも2003年に導入した放送設備が老朽化し、2015年3月に第2世代の新デジタル送出設備に更新しています。



更新を終えた主調整室

インターネット環境の充実に伴い、放送と通信の融合が一層進化し、テレビ視聴離れなど、テレビ業界にとっては今後さらに厳しい時代を迎えると考えております。そんな状況でも勝残ることができる発想と技術の礎は、塩釜口での4年間の勉学で培ったものと自負しております。

最後に、会員の皆様の御健勝と御発展を祈念して結びの言葉とさせていただきます。

第 39 回研究室対抗ソフトボール大会

日時：平成 28 年 10 月 15 日（土） 9：00 ～
場所：名城大学 第二グラウンド

今年も晴れ渡る空の下、電気電子工学科恒例の研究室対抗ソフトボール大会が行われました。今年のOBチームは、9名（競技参加者7名）と昨年より参加者が少なく、現役学生3名の応援を得て参戦しました。ご参加いただきました皆様には、お忙しい中、大変ありがとうございました。

初戦は不運にも昨年の優勝チームの堀田研究室との対戦となりました。堀田研究室は、例年、ソフトボールの得意な強者が多く、また、かなり練習を重ねて試合に臨んでいるようで、13-2と圧倒的な力の差で大敗を喫しました。ちなみに、堀田研究室はA、Bの2チームに分かれて参戦しており、今年はAチームが優勝、OBチームと戦ったBチームは準優勝でした。堀田研は、強すぎます！

その後の敗者同士の試合では、山中・益田研究室と戦いました。ここでは、村田研究室の女子の声援を頂き、OBチームのおじさんたちは「今度こそは！」と張り切りました。しかし、気合だけでは勝てません。結果は14-2と惨敗でした。今年も全敗でしたが、怪我もなく、楽しく参加することができました。

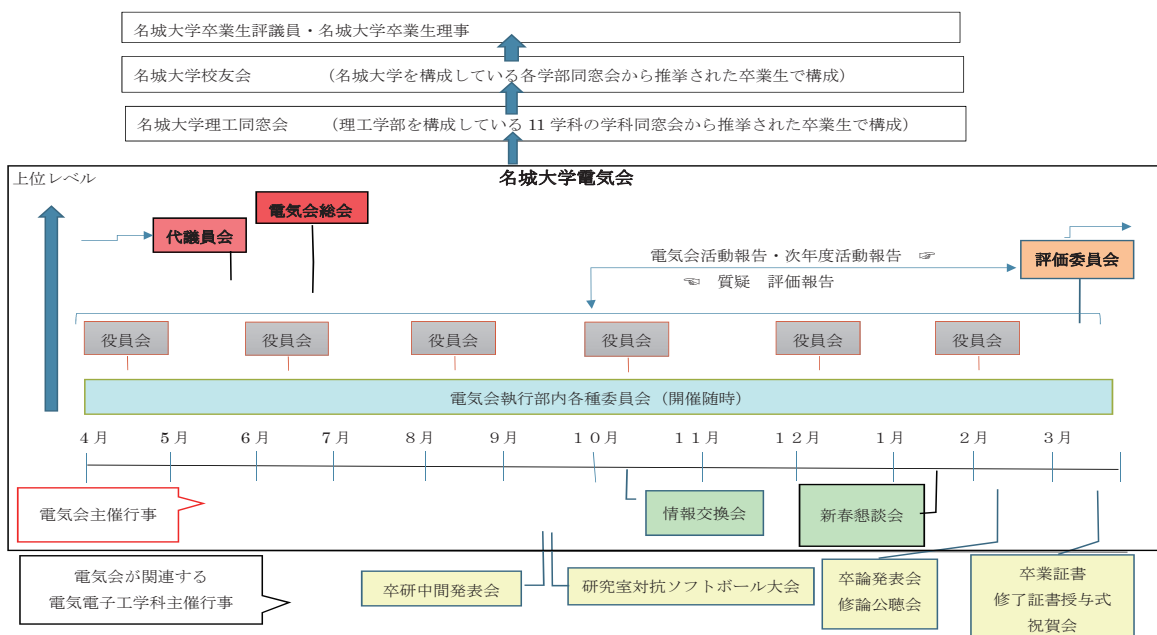
今年も、OBと学生が触れ合う大変良い機会になったと思います。来年も楽しく参加したいと思います。皆様もぜひ参加し、OBチームに力を与えてください！



試合結果：優勝 堀田研究室A
2位 堀田研究室B
3位 大江・児玉研究室

参加メンバー（敬称略）：
開米和明、岩田和久、小林正彦、竹村洸紀、伊藤士朗、
竹田有希、森順一、広倉覚、伊藤公一

名城大学電気会位置付およびダイアグラム



第 22 回 新春懇談会

- 日時 平成 28 年 1 月 28 日 (土) 17:00 ~ 20:00
 場所 アイリス愛知
 内容 1. ミニ講演会 2F サフランの間 17:00 ~ 17:50
 講師: 名城大学 電気電子工学科
 准教授 益田泰輔 様
 演題: 将来の電力系統の先進的な制御・運用について
 2. 懇親パーティー 2F コスモスの間 18:00 ~ 20:00
 式次第
 参加者
 ・一般 31 名 (電気会役員含む)
 ・来賓 16 名
 ・大学院生 2 名
 ・教員 13 名 (OB 教員 4 名含む) 計 62 名



新春懇談会は、諸先輩方のご努力と皆様方のご協力により、第 22 回を迎えることができました。ご来賓の皆様をはじめ、多くの方々にご参加頂き、心より深く感謝いたしております。

ただし、今年の一般参加者は、昨年と比べて若干少なくなりました。新春懇談会の目的の一つは、特に若い会員の皆様にとっては、人脈を広げ、自分の成長や仕事に役立てることだと思います。この意味において、参加者を増やすことはとても重要です。次年度は、さらなる広報活動を行っていきたいと考えます。

今回のミニ講演会は、平成 28 年 4 月に電気電子工学科の准教授としてご就任されました益田泰輔先生にお願いしま

した (ご略歴は、電気会会誌第 46 号をご参照願います)。演題は、「将来の電力系統の先進的な制御・運用について」です。東日本大震災以降、電力の小売全面自由化、太陽光発電設備の大量導入などにより、電力系統は需給調整や電力品質維持問題など、様々な問題が顕在化しています。講演は、これらについてわかりやすく解説され、また、これらの問題を解決するための研究の一端をご紹介いただきました。先生の研究は、今後の電力安定供給のために大変重要であることが理解できました。質疑応答も活発に行われ、大変有意義な講演会となりました。

パーティーのオープニングは、今年も、名城大学出身の津軽三味線奏者杉山大祐様の情熱的な演奏で飾っていただきました。杉山様は 10 歳から津軽三味線を習い始め、現在はプロとしてご活躍されています。津軽三味線の全国大会では 2 度の優勝を果たされており、海外での演奏経験もあるそうです。

続いて電気会会長、電気電子工学科長、理工学部長、校友会会長から挨拶を賜り、その後、理工同窓会会長より盛大に乾杯のご発声を頂きました。歓談の途中では、大学の先生方、各科同窓会役員の皆様からご挨拶を頂き、再度、楽しいトークを交えた杉山様の演奏がありました。

後半は、電気会役員が壇上にあがり、名城大学の応援歌を全員で斉唱し大変盛り上がりしました。そして最後に、電気会副会長の伊藤様に中締めを行って頂きました。

今年も、大変充実した楽しい新春懇談会になったと思います。来年もできる限り多くのご参加をいただきたいと思いますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。



第 23 回新春懇談会のご案内

- | | | | |
|----|----------------------|----|--------------------------|
| 日時 | 平成 30 年 1 月 20 日 (土) | 内容 | 1. 講演会 17:00 ~ 17:50 |
| | 17:00 ~ 20:00 | | 2. 懇親パーティー 18:00 ~ 20:00 |
| 場所 | 名古屋ガーデンパレス | | |

沖允人様が 日本山岳グランプリを受賞

名城大学山岳部 OB で元名城大学理工学部助教授、足利工業大学 (栃木県) 名誉教授の沖允人様 (82) が、大著「インド・ヒマラヤ」の編さん、刊行の功績で、1 月 14 日、公益社団法人日本山岳協会から「第 6 回日本山岳グランプリ」を受賞しました。

詳しくは、以下、名城大学ホームページ「名城点描 2017/1/20」をご覧ください。
 ホームページ URL: <http://www.meijo-u.ac.jp/sp/tenbyo/>

構内有線無線通信装置及びテレビ装置

大 藤 電 設 株 式 会 社
 大藤エンジニアリング株式会社

〒464-0850 名古屋市千種区今池一丁目 25 番 10 号
 TEL:052 (741) 3871 (代) FAX:052 (733) 3361
 名誉顧問 藤田 實 (専 I 25 年卒)

平成 28 年度卒業証書授与式および祝賀パーティー

< 卒業証書授与式 >

日時：平成 28 年 3 月 18 日（金） 13：30～15：30

場所：名城大学共通講義棟 H304 室

< 卒業・修了記念パーティー >

日時：平成 28 年 3 月 18 日（木） 15：30～18：00

場所：名城大学 6 号館 1 階グラン亭

名城大学全体の卒業式が愛知県体育館で行われた後、電気電子工学科の卒業証書授与式が、名城大学天白キャンパス共通講義棟 H304 室で行われました。今年度は、学部卒業生 124 名、修士修了生 36 名の皆さま（以下、卒業生）が証書を授与されました。

式典では、伊藤昌文学科長から祝辞が贈られました。両親はもちろん、恩師に対しても感謝の気持ちを忘れないこと、そして、失敗を恐れずチャレンジすることの大切さなど、社会人としての心構えをお話されました。

次に、松原成生理工学部後援会長の祝辞があり、その後、電気会代表として常田会長から祝辞が贈られました。電気会の歴史が、名城大学開学 90 周年の歴史と等しく、第一回卒業生が電気出身であったことや現在では 11,000 名を超える団体であること、組織や事業内容、電気会の運営は電気会会費で支えられており昨年総会で可決された事業費で祝賀会が行われること、全員が電気会会費を負担しなければならないことが述べられ、卒業後の長い人生のパートナーになりうる歴史と伝統と実績のある電気会の会員になることへの誇りをもってほしい、というお話がありました。

祝辞の後、学科長から学位記が卒業生全員に手渡されました。次に、電気会から、卒業論文および修士論文の発表会で優秀賞を受賞された方々に、お祝いとして表彰状と図書券をお渡しました。そして、卒業生全員に、「平成 28 年度卒業記念名城大学電気会」のネーム入り名刺入れをプレゼントいたしました。



卒業証書授与式の後、場所を名城大学 6 号館 1 階グラン亭に移動して、卒業祝賀パーティーが開催されました。電気会からは、常田会長、伊藤副会長、岩田副会長、広倉副会長、小林副会長、岩室相談役、伊藤相談役、藤田幹事、森幹事、開米幹事の 11 名が出席しました。

今年度より趣向を変えてパーティーの企画と運営を大学院生と学部生で担当して頂き、当日の会場設営と司会進行も担って頂きました。学生目線で非常に良い運営とするが出来ました。

パーティーは、電気会会長の挨拶の後、来賓挨拶として、学科長、校友会会長等から祝辞が贈られました。そして、乾杯は多和田先生に行って頂きました。

パーティーの途中では、今回新しく企画されたくじ引きが余興として行われ、OBから提供の企業賞、先生から提供された賞品など多数の景品があり非常に盛り上がりしました。その後、各研究室別に壇上に上がり先生を中心とした写真撮影を行い、最後に名城節を全員で斉唱しました。卒業生の皆さまには、大変思い出に残る一日になったと思います。

卒業証書授与式および祝賀パーティーの様子は、電気会ホームページに掲載しますので、是非ご覧下さい。卒業生の皆さまの今後のご活躍を期待致します。ご卒業おめでとうございます。

平成 28 年度電気電子工学科卒業研究中間発表会

日時：平成 28 年 9 月 10 日（土） 集合 9：45

場所：名城大学 天白キャンパス タワー 75 2 階 学生ホール

スケジュール：

- ＜発表会＞ 第 1 回 10：30～12：00
（ポスター貼り付け：10：00～10：10）
第 2 回 13：00～14：30
（ポスター貼り付け：12：30～12：40）
第 3 回 15：00～16：30
（ポスター貼り付け：14：30～14：40）

＜表彰式および懇親会＞ 17：00～18：00 場所：グラン亭

当電気会の新たな試みとして、教員の皆さまのご協力のもと、名城大学理工学部電気電子工学科の平成 28 年度卒業研究中間発表会に共催しました。その目的は、以下の通りです。

- ①学生に対し、電気会への理解を深めていただくこと
- ②社会人の立場から、卒業研究内容を評価し、学生に対して指導を行うこと
- ③電気会側も大学の研究内容に対し、より理解を深めること

発表方法は、ポスターセッションの形式で行いました。126 名の学生の皆さまは、スケジュールにあるように 3 回に分けて発表を行い、電気会の審査員が評価を行いました。研究内容は、電力系統、太陽光発電、ロボット制御、可視光通信、レーザ応用、電波応用、人工知能、殺菌処理、車両運転支援、教育システム等々、電気電子技術を核として、その応用分野は極めて多岐に渡る幅広い内容であり、いずれも大変興味深いものでした。

学生の発表に対する全体的な評価は、とても高いという印象を持ちました。ポスターの書き方、発表の仕方、研究内容への理解、質問への対応などの平均レベルは高く、教員の皆さまの日頃の指導に対し、改めて敬意を評したいと思います。また、発表者以外の学生は発表内容を聴講（アンケート評価）することになっており、学生にとって大変勉強になった一日ではないか、と思います。

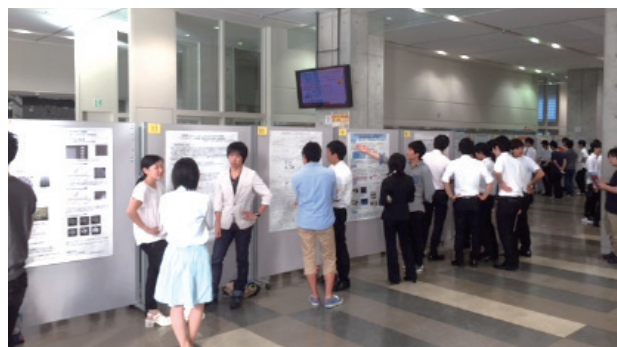
懇親会では、各回の発表者の中から、電気会にて最も優秀な学生を 1 名ずつ、計 3 名を選定し表彰しました。賞品として、図書券をお渡ししました。表彰を受けた学生は、いずれも研究背景や既往研究における課題、すなわち研究の位置づけを明確にしたうえで、解決策である自分のアイデアをわかりやすく、説得力を持って説明されていました。

年度末の 2 月 16 日（木）、17 日（金）には、最終卒研発表会が予定されています。卒業研究を行うことで、企画力、問題解決力、文章力、プレゼンテーション力など、様々な仕事で役立つ総合的な力が養われると思います。学生の皆さまは、一生懸命、これに取り組んでいただきたいと思います。

電気会会長賞受賞者：

- ①岡部 萌（伊藤研究室）「ラジカルと金属イオンによる大腸菌の液中殺菌」
- ②木下 雅裕（中條研究室）「サブキャリア変調によるイメージセンサ可視光通信の高速化に関する研究」
- ③牧野 貴駿（山中研究室）「PCS 容量により抑制された発電量推定方法の検討」

審査員：常田勝男、岩室 隆、広倉 覚、岩田和久、中田和弥、加藤秀行、伊藤公一



平成 28 年度電気電子工学科卒業・修士論文発表会 優秀発表賞受賞者

修士論文優秀発表賞

受賞者	題目
鳥居 夏平	金属ホウ化物による熱陰極の低仕事関数化
西田堅志郎	距離予測スコアの累積に基づく細胞内粒子検出
小林 剛士	大気圧酸素ラジカル源で処理した液中での殺菌メカニズムに関する研究

卒業論文優秀発表賞

受賞者	題目
高橋 真央	CNN による静止画像の識別に有効な特徴量の選択
佐藤 弘輝	太陽電池モジュール短絡時におけるセルの発熱に関する研究
木下 雅裕	サブキャリア変調による 256QAM および OFDM イメージセンサ可視光通信
岡部 萌	酸素ラジカル照射した有機溶液中の大腸菌殺菌
伊藤 隼也	再生可能エネルギー出力予測を利用した発電機運用の信頼性評価に関する研究
木野 裕也	パックドベッド水中放電を用いた有機物の分解

優秀発表賞受賞者論文紹介

氏 名	鳥居夏平	指導教員名	村田英一准教授	論文要約	伊藤公一（電気会）
題 目	金属ホウ化物による熱陰極の低仕事関数化				
Title	Experimental studies of work function cathode by metal boride				

1. はじめに

マスク描画用の微小電子線リソグラフィー装置では、動作が安定で、高い電子密度の電子プローブが必要とされる。また、陰極材料の消耗による電子銃の交換頻度を抑えるために長寿命化が課題となっている。そのため、(1)高輝度・大電流の同時達成、(2)長寿命化、(3)放出電流の高安定性、の条件を満たす電子銃の開発が重要である。

我々は上述の条件を満足する新しい電子銃として金属ホウ化物を使用した熱電子放出電子銃を開発している。本研究では、高融点金属の仕事関数を下げる材料の選定を行い、電子放出実験からその基本的な性能を評価することを目的としている。

2. 陰極および電子放出実験装置

2.1 熱陰極

陰極には高融点金属であるレニウムを使用している。しかしレニウムの一般に知られている仕事関数は 5.0 eV と非常に高いため、金属ホウ化物を塗布することで仕事関数を下げることが目指している。陰極は、平面先端で円錐形状の多結晶レニウムに CrB₂、ZrB₂ を塗布したものを使用した。

2.2 実験システム

陰極はフローティング加熱用電流源を使用して加熱し、温度は真空チャンバーの外から光高温計で計測する。電子源と対向する位置に蛍光スクリーン（陽極）が置かれており、放出された電子が到達すると衝突した部分が発光するようになっている。同時にスクリーン電流として計測し、さらに、スクリーン中央には、1 mmφ の穴があけられており、その後方にファラデーカップを配置することで、ピンポイントのビーム電流も計測できる。

2.3 実験手順

(1)電子源試料の W フィラメントを通電し、加熱することで、修飾材料を熱拡散させ表面修飾を行った。

(2)陰極の温度を一定にし、熱電子放出を行った。この時、蛍光スクリーンに映るエミッションパターンを観察し、また微小電流計で放出電流を測定することで電子放出面の修飾状況を確認した。

(3)本実験では、加熱温度を変えながら手順 (1)(2)を繰り返す、修飾材料ごとに仕事関数を下げるために必要な条件を探した。

(4)手順(2)で得た陰極温度・放出電流の特性からリチャードソンプロットを作成し、仕事関数を算出した。

3. 実験結果および考察

CrB₂、ZrB₂ の各陰極で温度を変化させビーム電流を測定した。そして、その測定結果からリチャードソンプロットを作成し、仕事関数を算出した結果、CrB₂/Re が 3.9 eV、ZrB₂/Re では 3.4 eV まで低下することがわかった。

4. まとめ

今回、クロム、ジルコニウムのホウ化物で修飾したレニウム電子源を用いて熱電子放出実験を行い、仕事関数が低下することを確認した。この結果は、修飾材料が基体となる金属表面で電気双極子を形成し、電気双極子モーメントの作用によって仕事関数が低下するモデルを反映した結果と考える。

今後は、単結晶の基体金属を使用することで仕事関数の低下量が大きい結晶方位面を探索する。また、より低仕事関数な電子源を実現するため修飾材料と期待金属の組み合わせを探索する予定である。

学籍番号	130442077	氏 名	佐藤 弘輝	指導教員名	山中 三四郎
題 目	太陽電池モジュール短絡時におけるセルの発熱に関する研究				
Title	Study on Heat Generation of Cell for Short Circuited Photovoltaic Module				

1. まえがき

太陽電池の診断方法の一つとして、熱画像を撮影し発熱箇所の有無から異常を判定する方法がある。熱画像を用いた診断は非接触であるため安全性が高く、容易に異常箇所を発見することが可能である。しかし、セルの全面が発熱する現象について未だ原因解明には至っていない。筆者らはセル全面が発熱する原因を明らかにすることで、将来的にモジュールの熱画像 1 枚を撮影するだけでセル個々の状態を評価することが可能になると考えている。本研究の初期段階として、まずセルの短絡電流と発熱温度の関係について模擬実験を行い検討した。

2. 実験内容

モジュール内すべてのセルについて I-V 特性を測定したところ、発熱するセルは正常なセルに比べて短絡電流が低下していることを確認した。このことから、セルが発熱する主な原因は短絡電流の低下にあると推測できる。そこで、本実験ではセルの短絡電流と発熱温度の関係を明白にするため、セルの短絡電流が日射と比例関係にあることを利用し正常なセル 1 枚に遮光フィルムを貼り付けセルに入射する日射を制限することによって、意図的に短絡電流を低下させた。このとき、遮光の割合を増加させていくことで短絡電流を徐々に低下させていき、その都度熱画像からセルの温度を測定した。

3. 実験結果

セルの発熱温度が最も高くなった場合の熱画像を Fig.1 に示す。このときの短絡電流の大きさは本来の 80 % である。遮光したセルの温度は 115.2 °C と高温で発熱しており、正常なセルの温度 (69.0 °C) と比較すると 46.2 °C の温度増加が生じた。

セル 1 枚の短絡電流の大きさと温度増加の関係を Fig.2 に示す。Fig.2 より、セルの短絡電流が低下するほど発熱温度が上昇するのではなく、セルの短絡電流がわずかに低下した場合（本実験で対象としたセルでは短絡電流の大きさが 80 % の場合）に発熱温度がピークを迎えると言える。この原因として、セルの短絡電流が低下した場合にそのセルが消費する電力の大きさが影響していると考えられる。

4. あとがき

セルの短絡電流を意図的に低下させることで、セルの短絡電流と発熱温度の関係を

明らかにした。今後は、複数のセルが同時に発熱する現象について検討する。

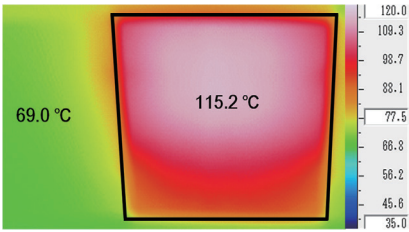


Fig.1 Short circuit current 80% of single cell.

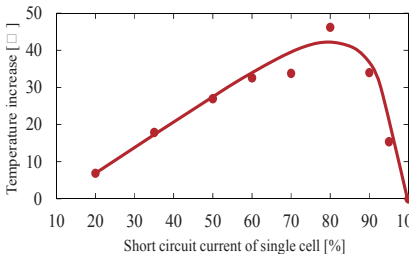


Fig.2 Relation of temperature increase and short circuit current.

PR1 名城大学へ総会・記念講演にきてください。

毎年6月第二週の日曜日は、午前9時に名城大学へ来てください。

➡ 電気会会員の皆様は、総会に参加してください。記念講演(無料)があります

日時:平成29年6月11日(日)受付9:00~

(1) 電気会総会 9:30~10:20

場所:名城大学 共通講義棟南S401室

議題:1.平成28年度事業報告

2.平成28年度決算報告、会計監査報告

3.平成29年度事業計画及び予算案

4.電気会役員・代議員変更について

(3) 理工同窓会 総会 11:30~12:45

場所:名城大学共通講義棟南S201

(4) 理工同窓会 懇親会 13:00~14:30

場所:名城大学タワー7 5 15Fレセプションホール

(※参加費2,000円 電気会に当日支払いください。)

(2) 理工同窓会総会記念講演会(無料)

開場 10:00

開演 10:30~11:30

場所:名城大学共通講義棟南S201

講師:名古屋大学未来社会創造機構

名古屋大学プラズマ医療科学国際イノベーションセン

ター・名古屋大学工学研究科附属プラズマナノ工学研

究センター兼任

堀 勝 教授

講演名:『プラズマによる地球創生』

★一般の方は講演のみ参加出来ます。★

受講お申し込みは ➡

電気会メールアドレス meijo.denkikai@gmail.com

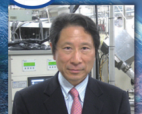
へ、お名前と住所、電話番号(名城OBは学科と卒年も必要)

を書いて、メールにてお申し込みください。

～名城大学理工同窓会総会記念講演～ ～常温常圧プラズマが拓く未来～

プラズマによる地球の創生

講師



名古屋大学
未来社会創造機構 教授
プラズマ医療科学
国際イノベーションセンター長
堀 勝氏(ほりまさる)

入場無料
どなたでも受講
できます

【講演題目】(大抵観望)

●プラズマナノテクノロジー

●プラズマで環境応用技術

●プラズマ医療

●プラズマ水処理

●プラズマ医療

がん治療、再生医療など未来医療への貢献

2017 6月11日 開場 10:00

開演 10:30

終了 11:30

名城大学共通講義棟南S201

※申込費 一般の方は講演のみ参加出来ます。

主催●名城大学理工同窓会 後援●名城大学電気電子工学科、名城大学電気会
お問合せ●名城大学理工学部電気電子工学科 電気会 事務局 〒466-8502 名古屋市天白区坂本1-1501
E-mail: meijo.denkikai@gmail.com FAX: 052-832-1298 TEL: 052-832-1151(代表)

PR2 OBチームソフトボール選手募集中!! 於:電気電子工学科研究室対抗ソフトボール大会

今年こそ、1勝したいです。ソフトボールつわもの来たれ! ➡

10月の気持ちの良い名城グラウンドを貸し切ってソフトボール

お申し込みは ➡ 電気会メールアドレス meijo.denkikai@gmail.com へ、お名前と電気会卒年を書いて、メールにてお申し込みください。

日時:平成29年10月*日(土) 9:00~ 電気会ホームページで、詳細が決まり次第、順次掲載していきますが、参加者を先行募集します。

PR3 ホテル名古屋ガーデンパレスに集まれ! 於:1月20日(土) 受付16:30~ 新春懇談会

退職された恩師と会おう! 旧交を温めよう!! ➡

恩師参加:大江先生、大野先生、河村英昭先生、米澤先生...(昨年実績)

お申し込みは ➡ 電気会メールアドレス meijo.denkikai@gmail.com へ、お名前と電気会卒年を書いて、メールにてお申し込みください。

日時:平成30年1月20日(土) 受付16:30 講演会 17:00~ 懇親会 18:00~ 参加者を先行募集します。

場所:ホテル名古屋ガーデンパレス(名古屋市中区錦3丁目11-13) 参加費:先行募集 8,000円 当日 9,000円

PR4 電気会の年次代議員を募集しています! 於:電気会代議員会 毎年5月第1週金曜19:00

1年に一回の代議員会に参加しよう! 校友会館第1会議室 ➡ 代議員 の居ない【学年】があります

【急募】→昭和:33年、34年、44年、46年、47年、49年、51年、54年、58年、61年、62年 平成:8年、9年、11年、12年、14~17年、19年、20年、22年、24年、26年

お申し込みは ➡ 電気会メールアドレス meijo.denkikai@gmail.com へ、お名前と電気会卒年を書いて、メールにてお申し込みください。

PR5 あなたの会社・店舗を宣伝して下さい 電気会は賛助会員を募集しています。

賛助会員とは? ➡ 本会の目的に賛同しその事業を援助する者で、役員会の承認を得た個人または団体。年会費1万円。

年1万円を電気会へ寄付すると、ホームページで宣伝できます。 ➡ WEBサイト <http://meijo-denkikai.jp/supporter/index.html>

お申し込みは ➡ 電気会メールアドレス meijo.denkikai@gmail.com へ、お名前と電気会卒年を書いて、メールにてお申し込みください。

PR6 電気会は100万円寄付しました。 於:名城大学開学90周年記念募金

お知らせです ➡ 名城大学は、昨年、開学90周年を迎えました。電気会は、名城大学開学90周年募金に、100万円の寄付を行いました。

PR7 会員情報更新してください 於:電気会ホームページ

住所や勤務先の変更について ➡ 住所や勤務先が変わられた時には、電気会ホームページの会員情報申請頁を利用ください

① HP URL: <http://www.meijo-denkikai.jp/> にアクセスしていただき、「会員情報変更申請」タブを選んでください。

② 必須事項を記入後、住所等の変更箇所をご記入頂き、「確認画面へ」ボタンを押して下さい。

③ 表示内容が正しければ「変更申請」ボタンを押して下さい。

PR8 電気会会誌の送付について 於:電気会会誌

現在、電気会では会誌をホームページにて公開しています。紙版の会誌については発行部数を削減したいと考えております。

つきましては、平成28年卒および平成29年卒の電気会会員の皆さまの中で、今後会誌送付をご希望される方は、電気会ホームページ「会員情報変更申請」の必須項目を入力し、かつ備考欄に「会誌送付希望」と記載して、電気会事務局に送信してください。

お申し込みは ➡ 電気会メールアドレス meijo.denkikai@gmail.com へ、お名前と電気会卒年を書いて、メールにてお申し込みください。